

目的 第36回大会では、中年女子の腰部体型に注目し、曲率も考慮した近似展開法によるパターンから作成したスカートについて検討を行った。今回は、若年女子を被験者に迎え、一人一人の腰部モデルをコンピューターで作成し、従来の製図法によるスカートと、近似展開法を用いて作成したスカートを着用した時のフィット性を数量的に求め、比較検討を行った。

方法 若年女子3名、中年女子3名の被験者について、スライディングゲージ法により、ウエスト、中ヒップ、ヒップの各横断面を測定し、横断面円周上のX、Y座標をコンピューターに入力して腰部モデルを作成した。このモデルの各横断面から交角一定の外接多角形を求め、近似展開法によるパターンを用いてスカートを作成し、腰部モデルにスカートを着用させて腰部の各部分のフィット性を算出した。

結果 各被験者の腰部モデルに従来の方法で作成したスカートと、近似展開法によるパターンで作成したスカートを着用させて、フィット性を比較したところ、若年女子については両者にあまり大きな差は見られなかったが、中年女子については差が見られ、従来の方法ではフィット性に欠ける部分が多く、分割線の位置、ダーツ量の検討が必要であることがわかった。